

## 学修成果／教育成果の可視化の実際と課題 —共愛学園前橋国際大学の取組を事例に—

- はじめに：学修成果／教育成果の可視化とは～教学マネジメント指針より～
- エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成
- 学修成果の可視化の信頼性向上と教育成果の可視化に向けての模索
- 教学マネジメントの体制
- 学修成果のキャリアとの接続の模索（産学連携）
- これから解決しなければいけないたくさんの課題

（参考）大学紹介等



共愛学園前橋国際大学

共愛学園前橋国際大学短期大学部

KYOGAI GAKUEN UNIVERSITY / JUNIOR COLLEGE

学長 大森昭生



はじめに

# 学修成果／教育成果の可視化とは ～教学マネジメント指針より～

# 教学マネジメントの本丸＝学修成果の把握・可視化とは

学修成果・教育成果の把握・可視化は、学修者本位の教育を実現する観点から、**一人一人の学生が自らの学びの成果（学修成果）として身に付けた資質・能力を自覚できる**ようにすることが重要である。このため、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を可視化された**エビデンスとともに自ら説明できる**ように複数の情報を組み合わせた多元的な形で行われることが必要である。また、**大学が、**学位プログラムを通じて**同方針に定める資質・能力を備えた学生を育成できていること（教育成果）も、**学修成果と同様に**説明できる**ことが必要である。教学マネジメント指針（22ページ）

学修成果の可視化の主体＝学生

教育成果の可視化の主体＝大学



# **エビデンスベースの自己評価による 学修成果の可視化と自律的学修者の養成**

# —KYOAI CAREER GATE (eポートフォリオ)—

4年間の主体的な学修とその成果を目に見える形で積み上げ、キャリアにつなげる。

4年間に会うたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである

## KYOAI CAREER GATE

に蓄積し、自分の学修を振り返りながら、それをエビデンスとして、学修成果指標に基づく成果の自己評価と可視化をします。

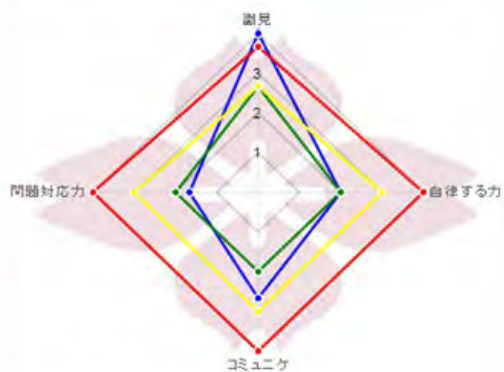
さらに、その活動や成果を

## SHOWCASE

を通して社会へと発信し、目ざすキャリアへと接続します。



共愛12の力 レーダチャート



## 4年間の学修で身に付ける4つの軸と12の力 (学修成果指標)

|           |             |             |              |
|-----------|-------------|-------------|--------------|
| 意見        | ■ 共生のための知識  | ■ 共生のための態度  | ■ グローバル・マインド |
| 自律する力     | ■ 自己を理解する力  | ■ 自己を制御する力  | ■ 主体性        |
| コミュニケーション | ■ 伝え合う力     | ■ 協働する力     | ■ 関係を構築する力   |
| 問題に対応する力  | ■ 分析し、嗜好する力 | ■ 構想し、実行する力 | ■ 実践的スキル     |

## SHOWCASE (KCG+S)

KCGに蓄積した成長の記録を公開履歴書としてキャリアに接続

≡ CAREER ≡

# 建学の精神とDP、そして「共愛12の力」(学修成果指標)

建学の理念：共愛＝共生の精神

教育の目的：国際的な視野を持ち、地域の諸課題を解決できる人材育成

ディプロマポリシー (DP)：

1. 地域社会の諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実技的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力



各コースが育む  
知識・スキル

## 共愛12の力

|            |            |
|------------|------------|
| 識見         | 共生のための知識   |
|            | 共生のための態度   |
|            | グローバル・マインド |
| 自律する力      | 自己を理解する力   |
|            | 自己を制御する力   |
|            | 主体性        |
| 問題に対応する力   | 分析し、思考する力  |
|            | 構想し、実行する力  |
|            | 実践的スキル     |
| コミュニケーション力 | 伝え合う力      |
|            | 協働する力      |
|            | 関係を構築する力   |

理念・目的・DP・地域産業界ニーズから導かれる達成指標

- シラバスに「共愛12の力」との対応を明記  
→ KCG (eポートフォリオ) に履修履歴と共に蓄積

|              |   |           |
|--------------|---|-----------|
| 到達目標         | 高校からの環境移行に伴う変化にうまく適応し、新たな関係づくりができることや資料調査を行う際に必要な基本技術を身につけることを目標とします。 |           |
| 「共愛12の力」との対応 | 識見  | 自律        |
|              | 共生のための知識  | 自己を理解する力  |
|              | 共生のための態度  | 自己を制御する力  |
|              | グローバル・マインド  | 主体性       |
| 教授法          | アクティブラーニング  | サービスラーニング |

ゼミ別に分かれた授業と、5ゼミ合同の授業を適宜使い分けて行います。授業の進行は演習交流も重ねて、上級生の海外体験を聴くなどの特別セッション、グループ作業、スポーツ大会

# 共愛学園前橋国際大学がめざす

## エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成

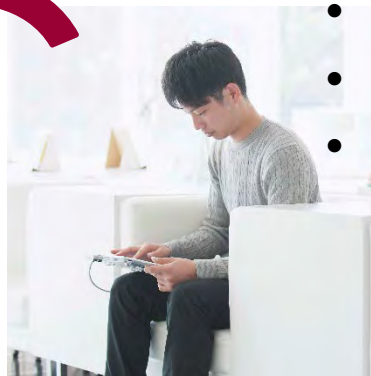


### リフレクション

リフレクションアワー  
+  
担当教員との個別面談



### 自己評価



- 学修活動の振り返り
- 学修計画の調整・改善
- 学修成果の総括

ショーケース  
キャリアプランニングで  
の作成指導

学生の自主的な取り組みに加え、  
授業課題やゼミ選択条件とするなどの  
動機づけも

### エビデンスの蓄積

(ポートフォリオ: KCG)

共愛12の力にリンク

### 評価規準

(コモンルーブリック)

授業での学修

学内活動

学外活動

| 科目   | 振り返り |
|------|------|
| 〇〇演習 | ...  |
| △△学  | ...  |
| □□概論 | ...  |

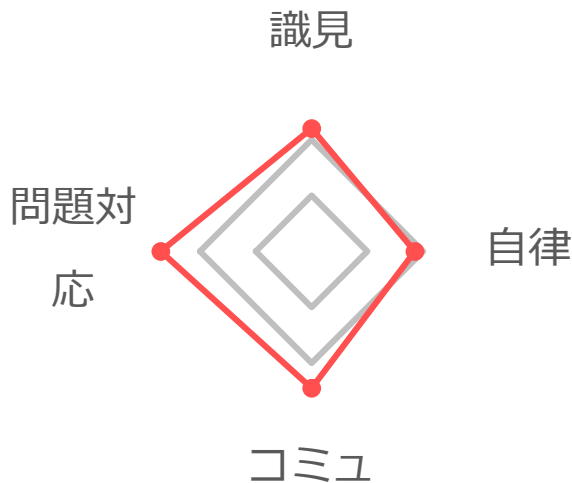


(参照)  
外部テスト



# (例) 学生が「主体性」の成長について振り返る

「主体性」を横断検索



コモンルーブリックを  
規準として自己評価

| 活動           | 概要・コメント・成果物など   |
|--------------|---|
| 授業A          | .....<br>.....  |
| 授業D          | .....  |
| ...          |   |
| ▼▼<br>(留学)   | .....  |
| □□<br>(サークル) | .....   |
| ○○<br>(読書履歴) | .....   |

「主体性」にタグ付けされた記録を一括表示



# 共愛学園前橋国際大学コモンループリック

| 4の軸        | 12の力      | 12の力の定義                                   | レベル4   | レベル3   | レベル2  | レベル1   |
|------------|-----------|---|--|--|---|--|
| 識見         | 共生のための知識  | 多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識        | 共生のための社会の諸課題に対応するための、新たな知見を生み出すことができる。                           | 共生のための社会の諸課題について、知識を組み合わせ、自分の言葉で説明することができる。        | 所属するコースの専門的な知識を習得している。                              | 文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。                 |
|            | 共生のための態度  | 多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動                  | 多様な存在が共生可能な社会のために、考え、学び、行動し続けることができる。                            | 多様な存在が共生する社会の中で自分ができること、やらなければならないことについて考えることができる。 | 授業や活動を通じて、社会が多様な存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っている。 | 自分の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。         |
|            | グローバルマインド | 地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢 | 地域社会と世界をつなぎ、自らが暮らし、地域社会の発展に貢献するグローバル人材として活躍していくビジョンを持っている。       | 地域社会と国際社会の関わりについて、様々な学びを通じて、主体的に考えることができる。         | 母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。                | 自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。          |
| 自律する力      | 自己を理解する力  | 自己の特徴、強みや弱み、成長を正確に理解する力                   | 様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に表現でき、将来に向けての自分をイメージすることができる。 | 様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。    | 自らの興味関心や特徴、長所や短所について考えながら、授業や活動に取り組むことができる。         | 授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のありかを確認したり、新たな興味の対象を見つけようしたりしている。 |
|            | 自己を制御する力  | ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力       | ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつつ、大きな困難に挑戦し、価値あることをやり遂げた経験と自信がある。           | ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつつ、困難な課題に取り組み続けることができる。        | 達成が容易でない課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。                    | 設定した目標に向かって、取り組むことができる。                                |
|            | 主体性       | 人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力         | 人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動することができる。                          | 自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。          | 指示を待つのではなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。         | 指示を待つのではなく、何をすればよいか、するべきかを見つけようとしている。                  |
| コミュニケーション力 | 伝え合う力     | コミュニケーションにおいて相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力 | レベル1～3を複数の言語で行うことができる。   | 適切なコミュニケーション・ツールを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。   | コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。            | 発言や文章の論点を正しく理解することができる。                                |
|            | 協働する力     | 他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力             | 良いグループになるための条件を常に模索し、他のメンバーへの働きかけを通じて、グループの目標達成に貢献することができる。      | 多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。              | グループでの自分の役割、責任を理解し、自分なりにグループに貢献することができる。            | 他者の発言をよく聞き、会話の流れをしっかりと追いつきながら、グループに協力することができる。         |
|            | 関係を構築する力  | 様々な他者と円滑な関係を築く力                           | 自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。           | 互いの状況や立場についての理解を深め合うことにより、相手と円滑な関係を築いていくことができる。    | 相手の状況や立場を理解し、共感を示しながらコミュニケーションすることができる。             | 自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手を尊重してコミュニケーションすることができる。   |
| 問題に対応する力   | 分析し、思考する力 | 様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力             | 必要な情報を効率的に集め、多面的視点から分析を行い、現実の、または学術上の問題について新たな課題を発見することができる。     | 情報・資料の分析を通じて、物事を多面的に見ることにより、問題の新たな側面を発見することができる。   | 自ら情報・資料を収集し、それらを論理的に分析し、考察することができる。                 | 与えられた情報・資料を客観的に読み取ることができる。                             |
|            | 構想し、実行する力 | 課題に対応するための計画を立て、実行する力                     | 現実の、または学術上の問題を解決するために、収集した情報や知識を活用しながら計画を立て、実行することができる。          | 計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正しながら、着実に実行していくことができる。       | 立てた計画を着実に実行することができる。                                | 取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。                          |
|            | 実践的スキル    | 現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル          | 問題解決に役立つ様々なスキルを組み合わせ、状況に応じて柔軟に活用することができる。                        | 自らの強みとなるスキルを身につけ、問題に対応することができる。                    | 学びに必要な基本的な事柄を自らのスキルとして活用できる。                        | 学びに必要な基本的な事柄（コンピュータの使い方やレポートの書き方など）を理解している。            |





# 学修成果の可視化の信頼性向上と 教育成果の可視化に向けての模索

# 学修成果の可視化の信頼性向上へ向けての模索

## 学修成果の可視化ステップ 1 (2015 - 2018)

- **PLAN**
  - 学修成果指標「共愛12の力」の策定・浸透
- **DO**
  - エビデンスベースド自己評価システムKyoai Career Gate (KCG) の運用開始
  - シラバスに「共愛12の力」の対応を追加
  - 全学生がリフレクションを実施
  - 「共愛12の力」策定・AL推進・KCGのためのFD
- **CHECK**
  - 共愛12の力に対応し、AL授業数の増加
  - 授業外学修時間の増加
- **ACTION**
  - リフレクションの効果向上のためのKCG利用率の向上
  - 教育プログラムと「共愛12の力」の関係の検証

## 学修成果の可視化ステップ 2 (2019 - 2022)

- **PLAN**
  - 学修成果の可視化の実質化
- **DO**
  - KCG+S (ショーケース) を学びの履歴書と位置づけ、キャリアプランニングⅠ・Ⅲ (必修) で作成 (KCG投稿記事の主要記事を公開)
  - KCGの利用向上のためのシステム改善
  - **学修成果「共愛12の力」の多角的可視化に向けた構造化**
- **CHECK**
  - 卒業生調査による学修経験・身についた力
  - 卒業までの4年間の「共愛12の力」の変化
  - **リフレクション (ショーケース) ・リフレクション面談の効果検証**
  - **卒業時の「共愛12の力」の把握・検証**
- **ACTION**
  - **学修成果の可視化に基づくカリキュラム改善**
  - 教学マネジメントのための組織設置・改善の推進

## 学修成果の可視化ステップ 3 (2023 - 2024)

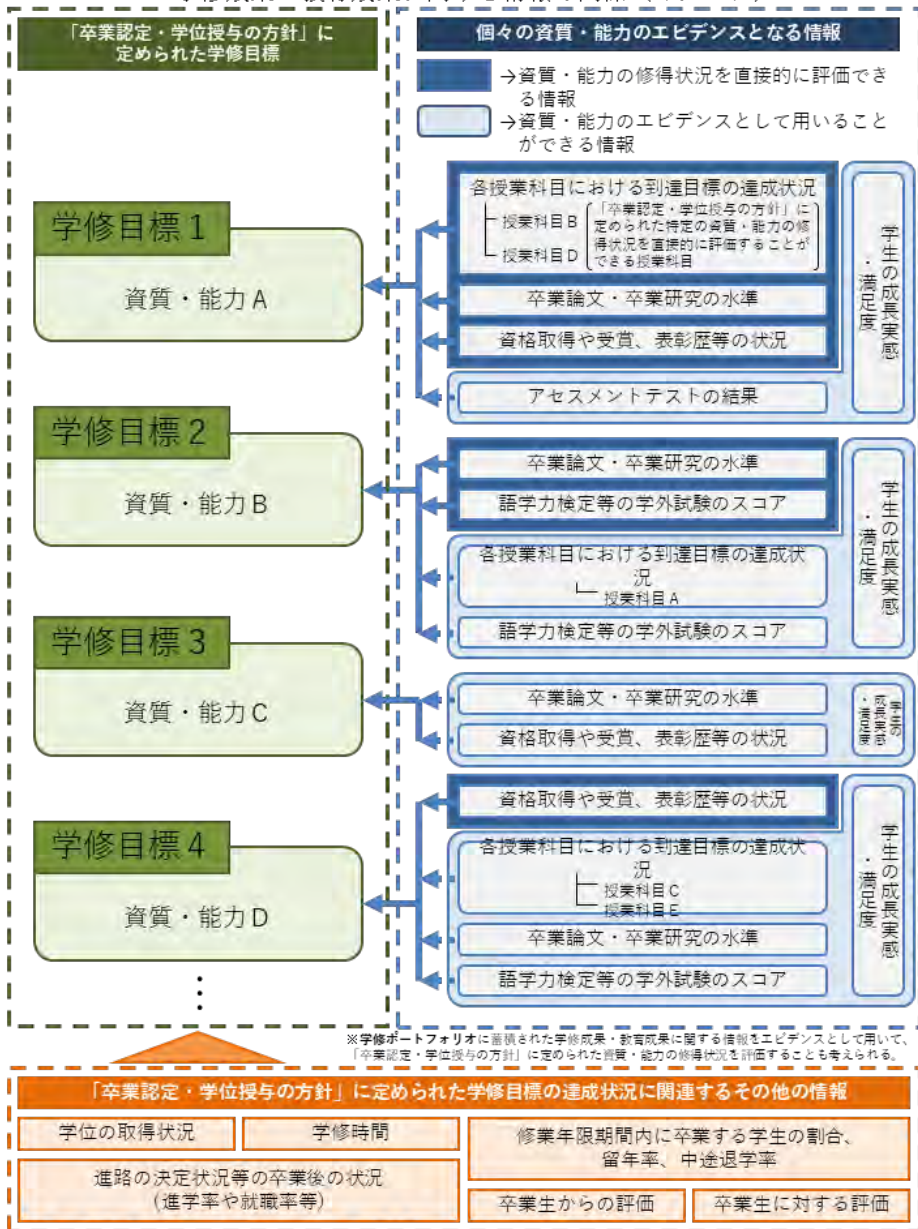
- **PLAN**
  - 学修成果の可視化の信頼性の向上
- **DO**
  - 2023年度入学生から順次新カリキュラムの開始
  - カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの運用
  - 学修成果達成度評価指標科目による教育成果の検証
  - 達成度評価科目 (必修) ・課題演習・卒業研究で「共愛12の力」の確認 (レベル2以上)

青字 = 現在取組中 赤字 : 重要なACTION



「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と学修成果・教育成果に関する情報の関係（イメージ）

教学マネジメント指針 40頁 別紙1



### 教学マネジメント指針 27頁

○学修成果・教育成果の把握・可視化の基礎となる「卒業認定・学位授与の方針」が個々の大学における強みや特色等を踏まえて設定されるべきものであることも踏まえると、従来から多くみられるように、単に授業科目ごとの成績評価を示すだけでは学修成果・教育成果の把握・可視化としては不十分である。そのため、各大学が自ら様々な情報を組み合わせて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにすることが強く期待される。その際、エビデンスとして使用可能な情報は多岐にわたるが、こうした様々な情報について、同方針の各項目にひも付けて整理し（例えば別紙1参照）分かりやすい形でまとめなおし、同方針に定められた資質・能力を身に付けていることを示すことが考えられる。

DPの資質能力に合わせてどのような方法でその目標達成を可視化するかを各大学で検討



# 共愛学園前橋国際大学が検討している 教育成果の把握・可視化のための複合的なエビデンス

## 大学全体 (institutional level)

- DP/CP/APの有効性：「共愛12の力」1年次から卒業時の伸長、KCG+S作成率、入試別検証
- 教育の有効性・社会への適応：卒業生調査、就職先アンケート、在校生・卒業時調査、就職率・進学率、卒業率
- 学修成果（12の力・DP達成度）：リフレクション記入率、リフレクション面談実施率

## 学位プログラム (program level)

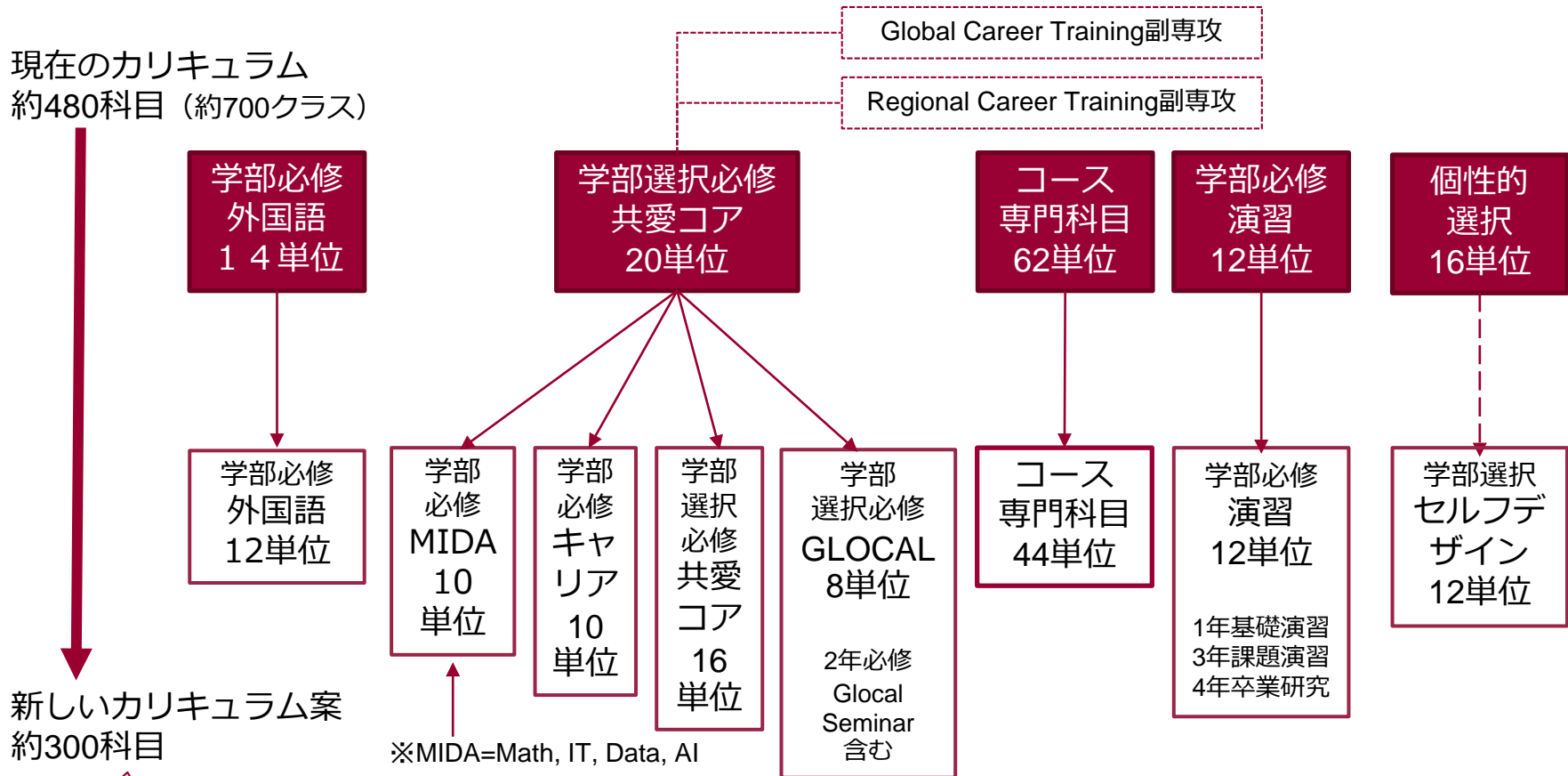
- 教育方法の適切性：AL/PBL導入と授業外学修時間・授業方法別12の力の伸長、オンデマンド授業の検証
- 教育課程編成の適切性：退学率、GPA、単位の実質化（授業外学修時間）
- 国際理解・留学経験支援：留学・COIL経験者数、留学率
- 地域理解・社会連携・社会貢献：地域・企業連携（寄付講座）、高大接続
- 学習支援：奨学金の有効性、進路指導、留学生支援、DE&Iの設置、ピアサポート利用率(ラピタデスク、ITサポート、英語)、退学率

## 授業科目 (class level)

- 授業の適切性：クラス規模、シラバスと授業内容の整合性、授業アンケート、授業外学修時間
- LMSによる授業支援：LMS利用率（LMSの効果検証）

# 共愛学園前橋国際大学 DP達成のためのカリキュラム改革

現在のカリキュラム  
約480科目 (約700クラス)



あくまでも  
想定の結果  
です！

# (参考)2023年度スタート短期大学部のカリキュラム改革

## S-D Challenge (Self-Design Challenge)

教室での授業ではなく、様々な体験的な学びを自分でデザインし、その学びを通して、自分の在り方を考え、キャリア=人生をデザインする力を身につける取組。



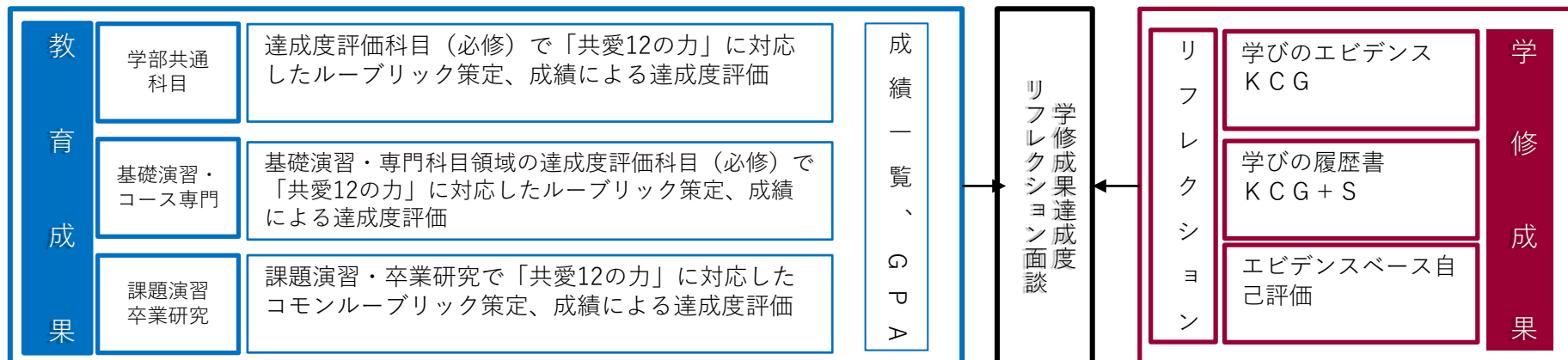
## Quarter System (4学期制)

| 入学 | 1年次           |                |      |                 |                       |      | 2年次                |                   |      |                    |                     |      | 卒業 |
|----|---------------|----------------|------|-----------------|-----------------------|------|--------------------|-------------------|------|--------------------|---------------------|------|----|
|    | 4-5月          | 6-7月           | 8-9月 | 10-11月          | 12-1月                 | 2-3月 | 4-5月               | 6-7月              | 8-9月 | 10-11月             | 12-1月               | 2-3月 |    |
|    | I<br>1st term | II<br>2nd term | 夏休み  | III<br>3rd term | S-D<br>Challenge term | 春休み  | IV<br>the 4th term | V<br>the 5th term | 夏休み  | VI<br>the 6th term | VII<br>the 7th term | 春休み  |    |

※共愛学園前橋国際大学短期大学部は、生活学科・子ども学専攻／栄養専攻を有する資格取得型の短大であるが、密なカリキュラムの中で効果的な学修と共愛短大10の力（資質能力）を身につけるために4学期制に移行する。



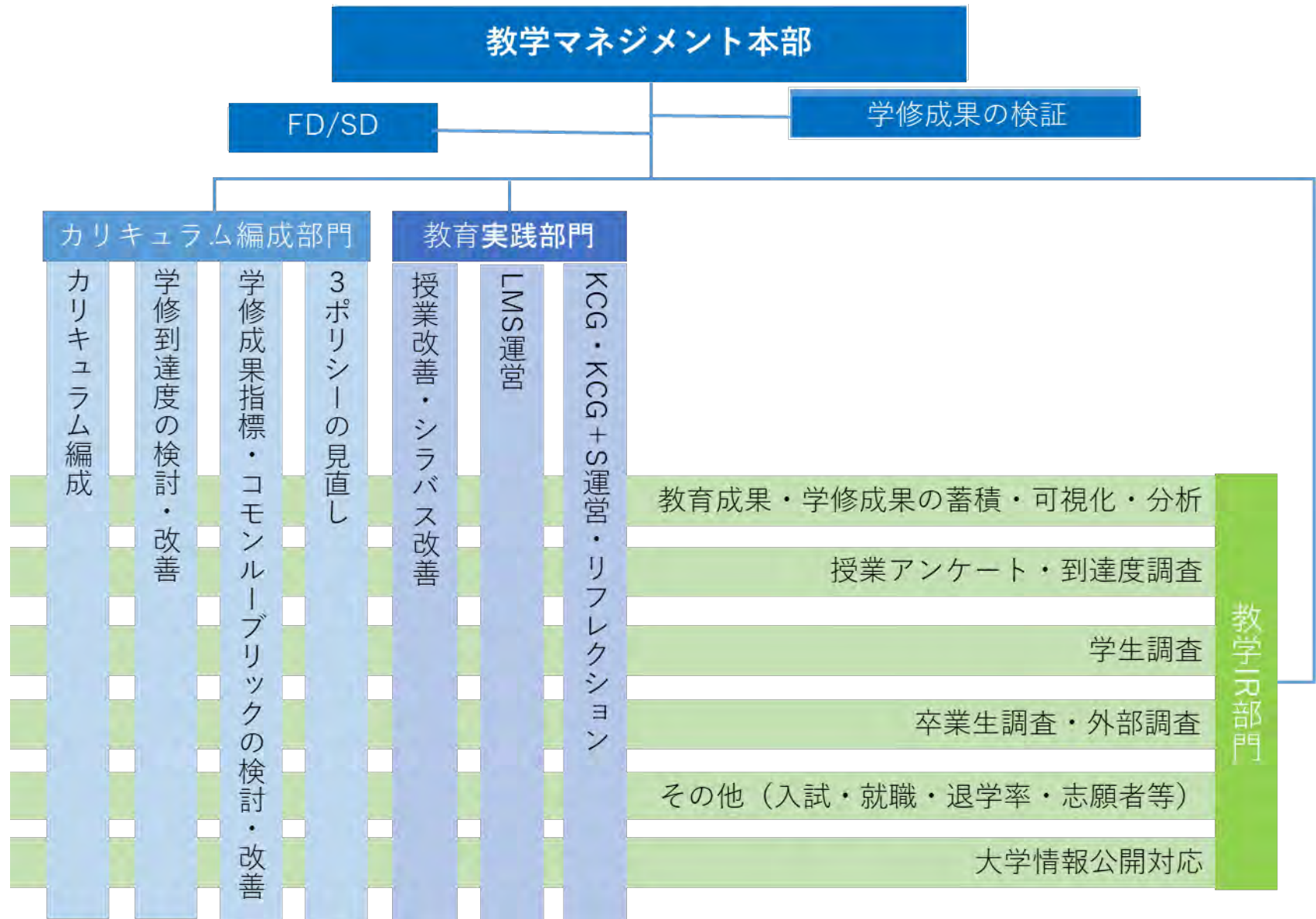
# 2023年度から始まる新カリキュラムにおける 学修成果の可視化と教育成果の把握に係る検討を開始





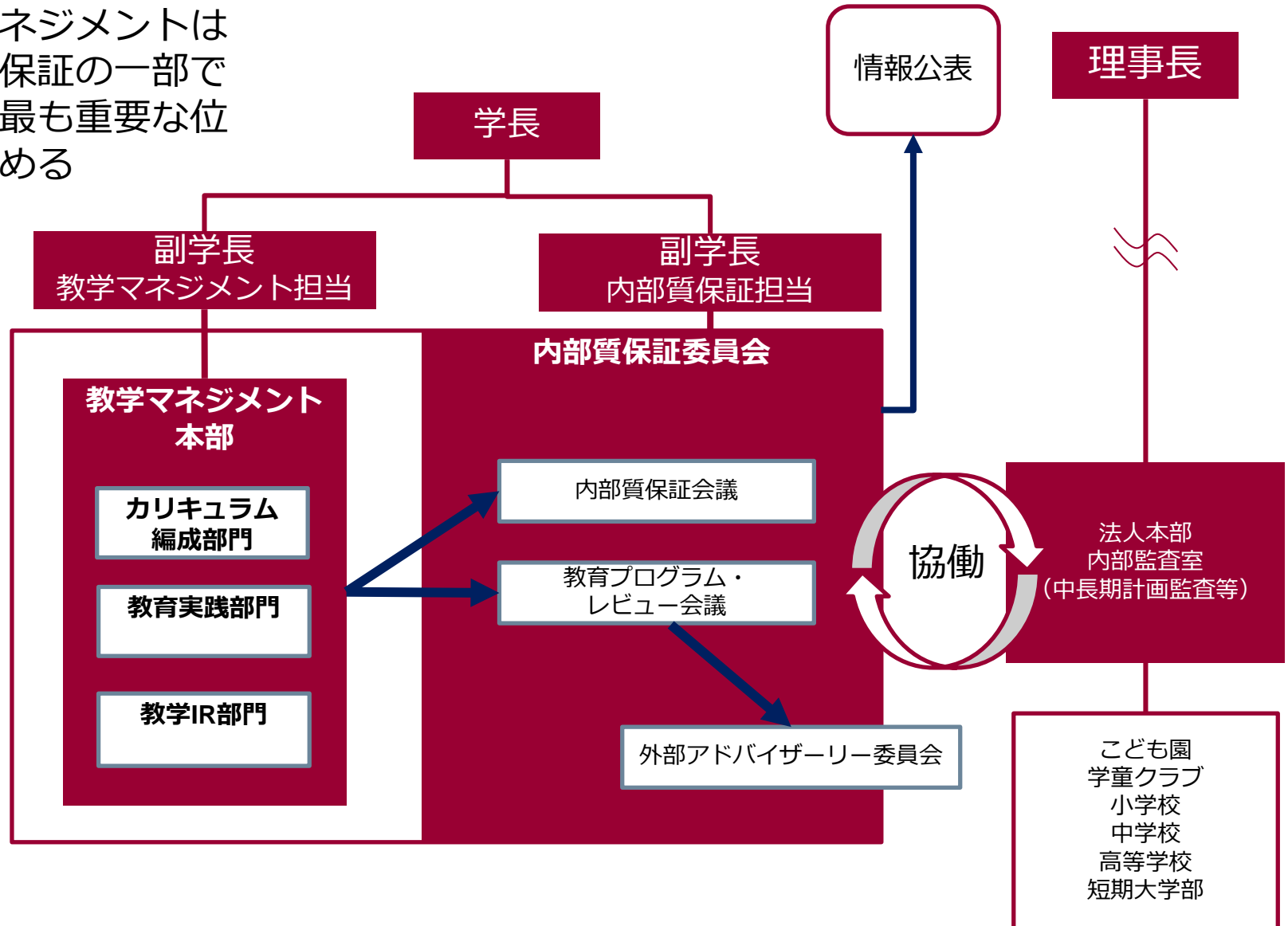
# 教学マネジメントの体制

# 教学マネジメント本部組織と機能



## (参考)内部質保証の体制

教学マネジメントは  
内部質保証の一部で  
あるが最も重要な位  
置を占める





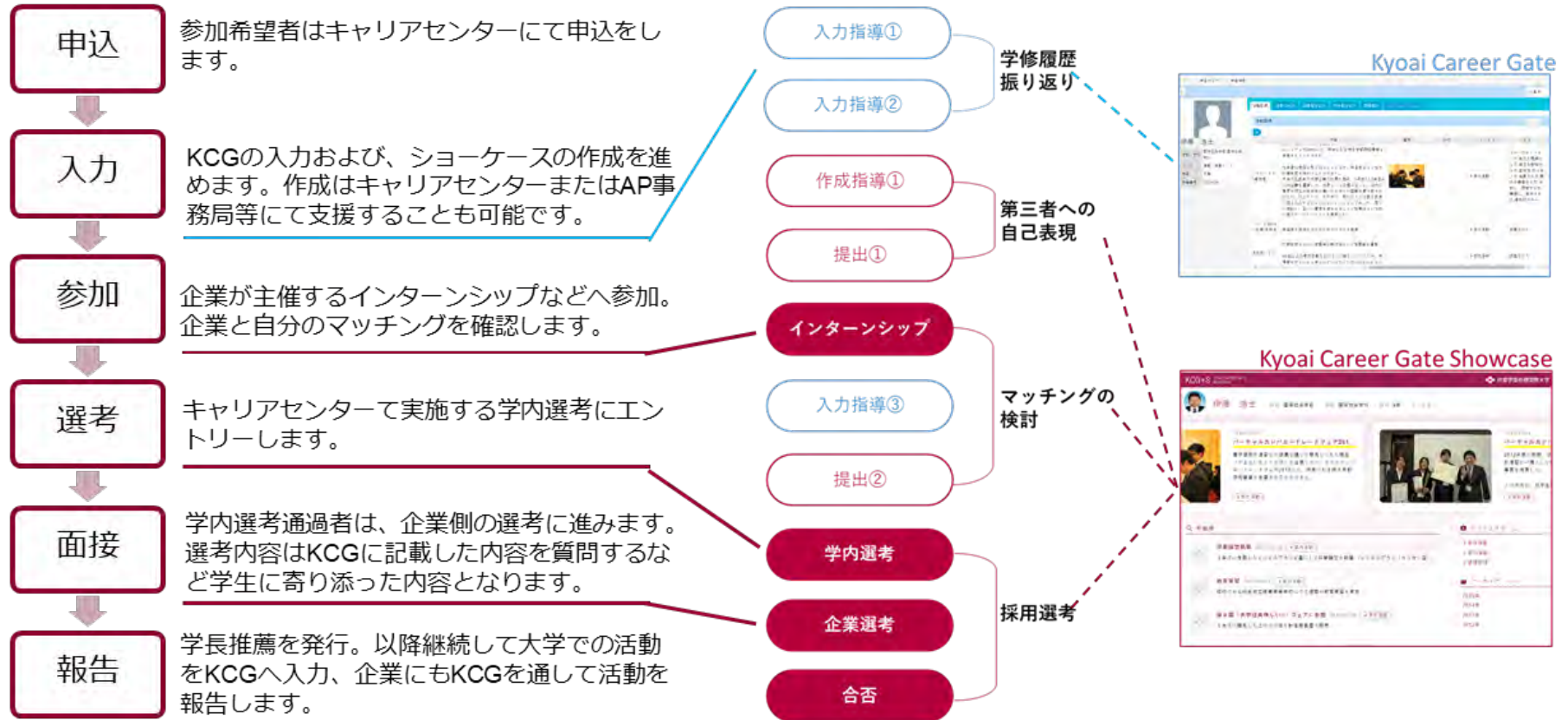
理想は、出口の質保証から、接続・育成へ

## **学修成果のキャリアとの接続の模索(産学連携)**

# 学修成果の可視化とキャリアへの接続

## KYOAI Career Gate 採用

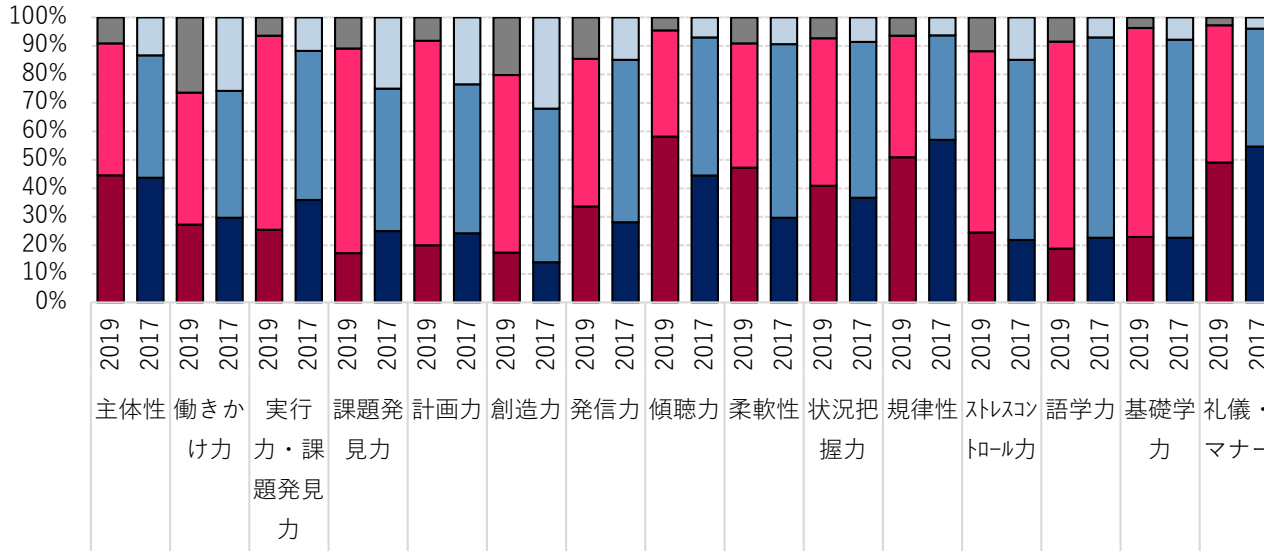
学修成果の蓄積と可視化の取組をマッチングに活かし、採用と採用後の人事配置や育成へと接続する仕組みを地元企業と模索。



# キャリアとの接続：就業先への卒業生調査

社会人基礎力（2019／2017比較）

2019 ■ よくできてる ■ 期待通り ■ 物足りない  
 2017 ■ よくできてる ■ 期待通り ■ 物足りない

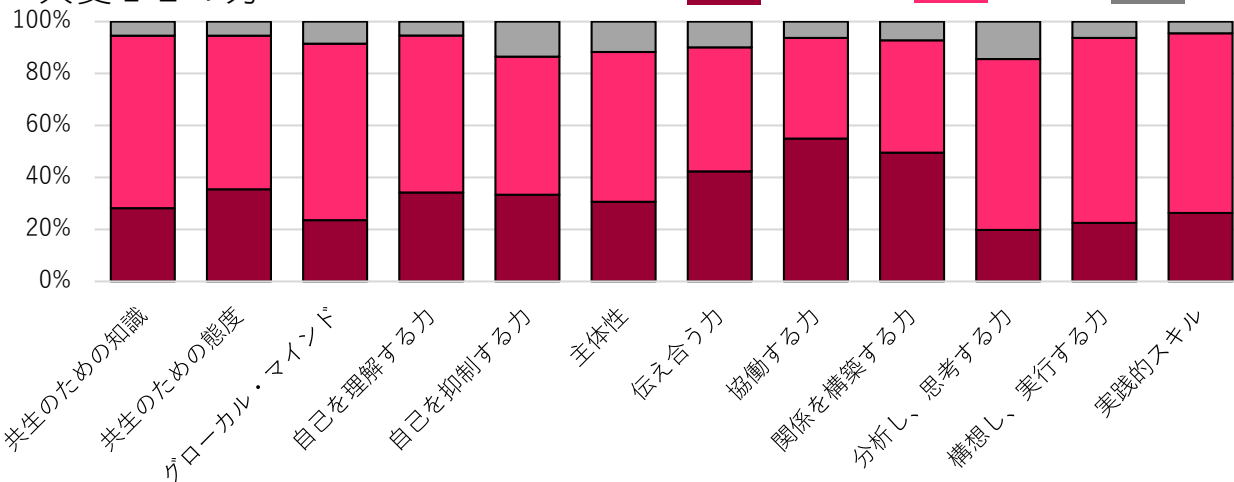


就業中または就職した実績のある本学卒業生に関して、社会人基礎力を評価軸とした質問を行った。この調査は2017年度にも行ったため比較している。

実施時期：2020年2月～3月  
 対象：共愛学園前橋国際大学の就職先等 239社  
 回答企業：144社  
 調査方法：郵送調査（一部2月に本学で開催したセミナー内での集合調査を実施）

共愛12の力

2019 ■ よくできてる ■ 期待通り ■ 物足りない



本学卒業生が就業中または就職した実績のある企業に対して、共愛12の力を評価軸とした質問を行った。この調査は2019年度に初めて行った。

# 卒業生調査

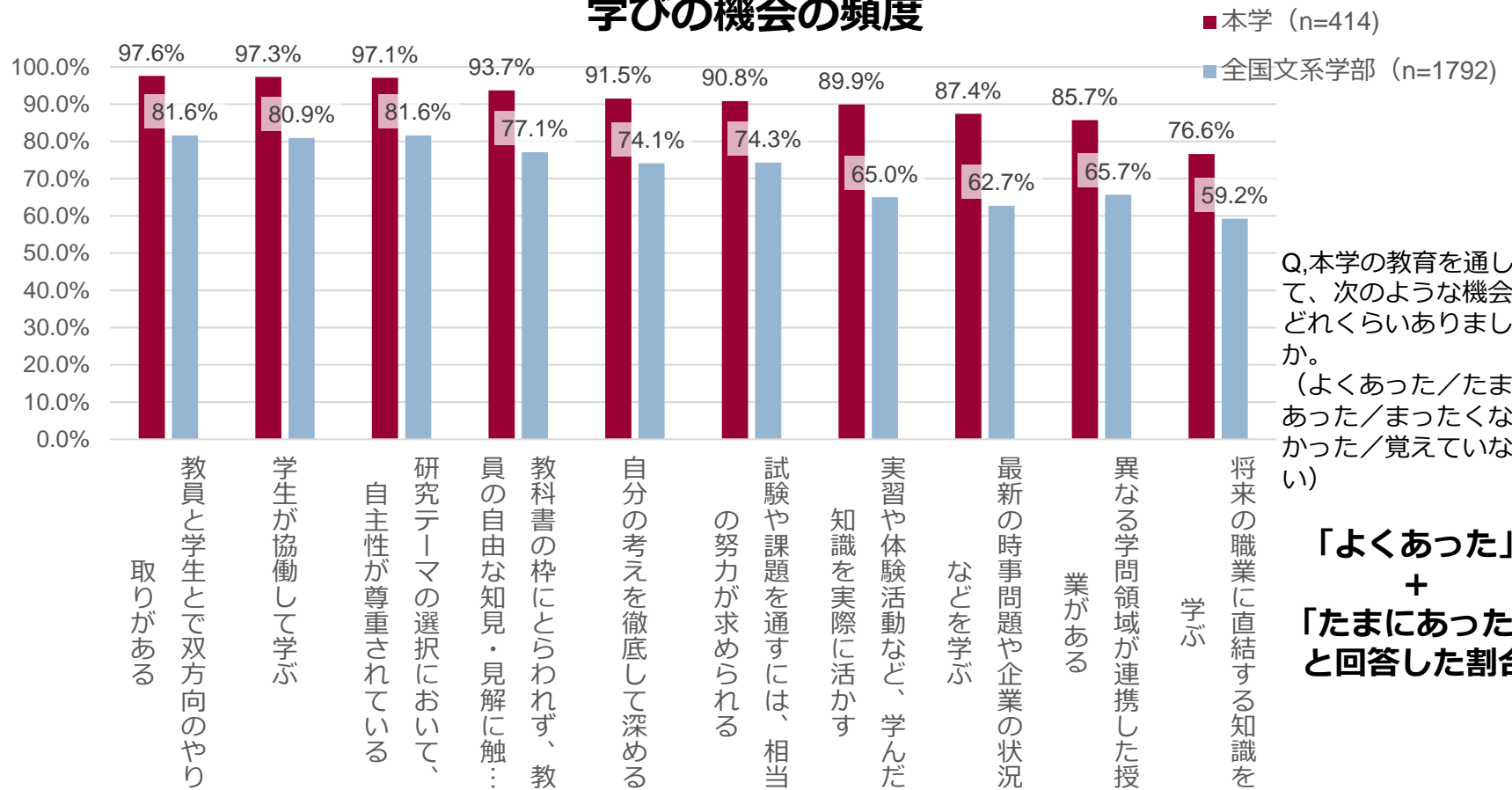
【調査対象者】 卒後1～6年目の卒業生 = 2016年3月～2021年3月卒業者

【調査期間】 2021年12月13日（月）～2022年1月11日（火）依頼状を自宅に送付し、WEBアンケートフォームにて実施・回収

【発送・回収数】 発送数：1,315名 有効回収数：414名（回収率31.5%）

※外部機関に委託し、全国データとの比較も依頼

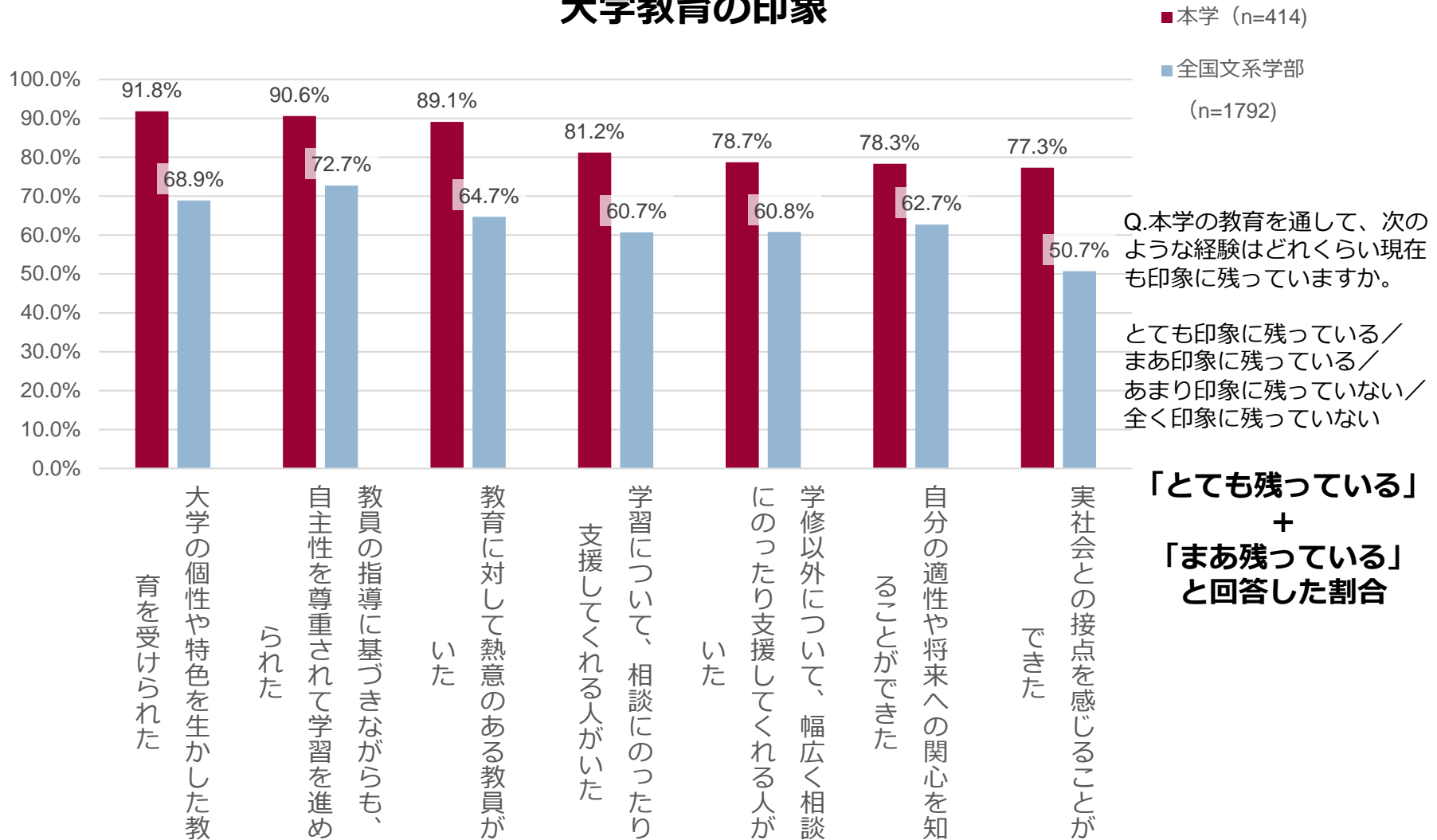
## 学びの機会の頻度





# 卒業生調査

## 大学教育の印象



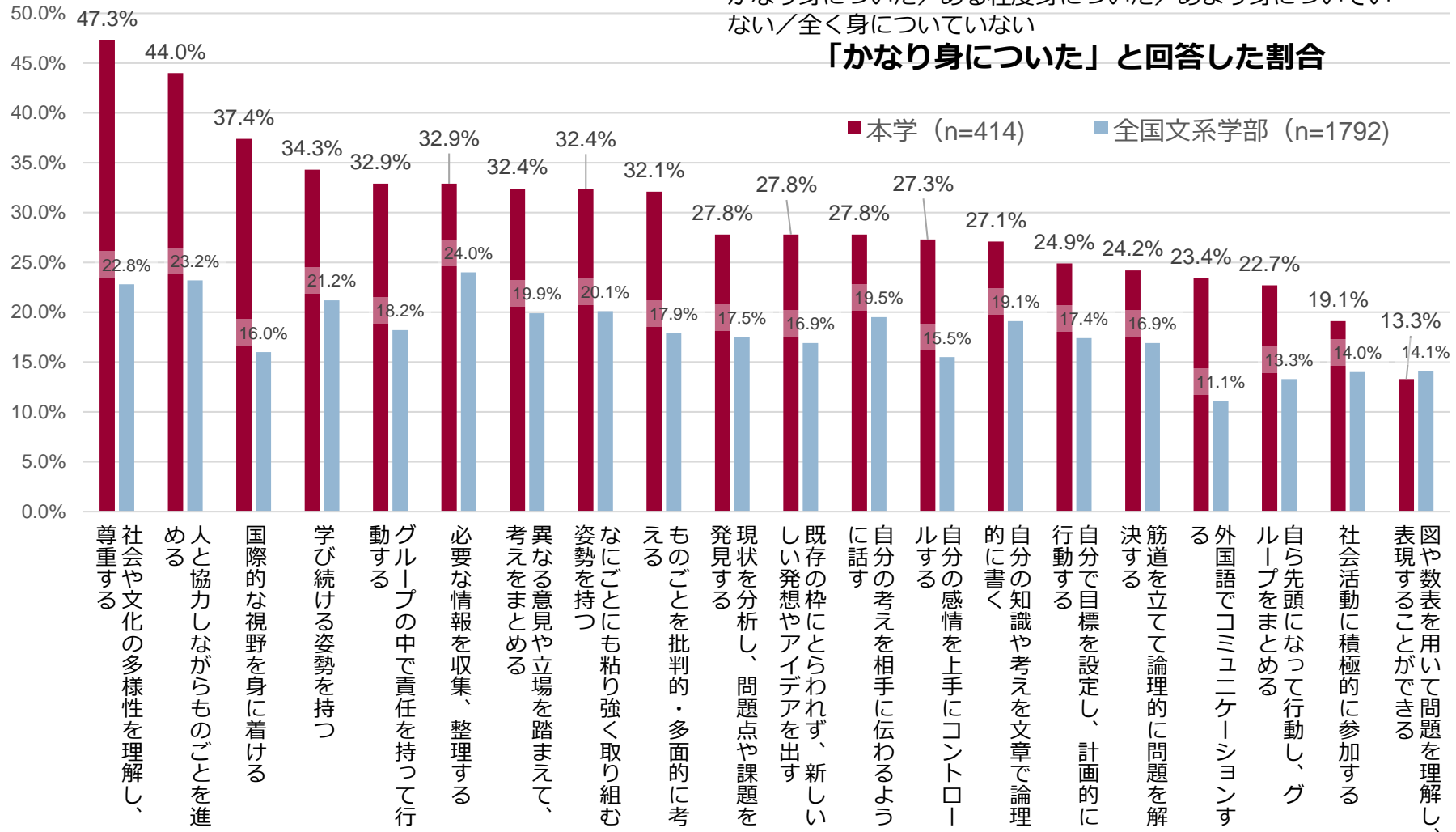
# 卒業生調査

## 各能力の習得度

Q.大学生活全体を通じて、次のような力がどの程度身についたと思いますか。

かなり身についた／ある程度身についた／あまり身につけていない／全く身につけていない

### 「かなり身についた」と回答した割合



# たくさんの課題

## 学修成果「共愛12の力」の多元的可視化に向けた構造化

- 多元的可視化に際して学修成果と教育成果を混同しないこと
- 多元化してもなお、それを含めて学生が自ら説明できること

## リフレクション（ショーケース）・リフレクション面談の効果検証をこれからはなければならない

- 現在90%台の面談率を100%にするためにも
- 本当に先生たちが頑張ってくれているけど、結構大変！3学年のゼミ生とすべて面談をするので、30~40人になる。だからと言って、知らないだれかに面談されても…と先生方は言ってくれる。
- 持続可能な体制を模索中。例えば、行事として授業を入れない面談DAYをつくったり。

## 卒業時の「共愛12の力」の把握・検証・卒業要件化？

- 現在は教員から記入を促すことにとどまる
- 12の力のレベルを卒業要件とするかどうかの議論も必要
- 卒業要件とする場合、100%の学生が自己評価をしなければならない

## 授業と「共愛12の力」と評価と・・・

- マップで提示する当該授業で身に着く力を個々の授業でどうアセスメントするのか
- 一つの授業でその力を身に着けるわけではなく、課外活動も含めた4年間の総体として身につくものでもあるので・・・
- 次年度以降にいわゆるマイルストーン科目を設定することの検討を開始することでソリューションが見えないか

共愛学園前橋国際大学が検討している  
教育成果の把握・可視化のための複層的なエビデンス

大学全体 (institutional level)

- DIPCPAPの有効性：「共愛12の力」9年次から卒業時の成長、KG3+8修得率、入試別伸び
- 教育の有効性・社会への適応：卒業生調査、就職先アンケート、在校生・卒業生調査、就職率・進学率、卒業率
- 学修成果（12の力・DP達成度）：リフレクション記入率、リフレクション面談実施率

学位プログラム (program level)

- 教育方法の適切性：ALP&L導入と授業外学修時間・授業方法別12の力の付与、オンデマンド授業の検証
- 教育課程構成の適切性：進学率、GPA、単位の卒業化（授業外学修時間）
- 国際理解・留学経験支援：留学・COIL経験者数、留学率
- 地域理解・社会連携・社会貢献：地域・企業連携（寄付講座）、高大連携
- 学習支援：学習意欲の有効性、進路指導、留学生支援、DE&Iの促進、ピアサポート利用率(ラビタデスク、ITサポート、英語)、進学率

授業科目 (class level)

- 授業の適切性：クラス規模、シラバスと授業内容の整合性、授業アンケート、授業外学修時間
- LMSによる授業支援：LMS利用率、LMSの効果検証

Creating the Future of Our Community 共愛学園前橋国際大学 Supporting the Well-being of Our Community 共愛学園前橋国際大学短期大学部

2023年度から始まる新カリキュラムにおける  
学修成果の可視化と教育成果の把握に係る検討を開始

|    |               |      |  |
|----|---------------|------|--|
| 4年 | 卒業論文          |      |  |
| 3年 | 課題研究          | コア専門 |  |
| 2年 | GLCA, seminar | コア専門 |  |
| 1年 | 必修コア必修科目      | 基礎科目 |  |

学修成果の可視化

|          |   |          |          |
|----------|---|----------|----------|
| 学修成果の可視化 | 共通教育・専門科目の履修状況の可視化（LMS）<br>「卒業12の力」に対応したルーブリックを設定<br>による可視化検証 | 学修成果の可視化 | 学修成果の可視化 |
| 教育成果の把握  | 課題研究・卒業論文「共愛12の力」に対応したルーブリックを設定、活用による可視化検証                    | 教育成果の把握  | 教育成果の把握  |

Creating the Future of Our Community 共愛学園前橋国際大学 Supporting the Well-being of Our Community 共愛学園前橋国際大学短期大学部

- ・・・学修成果・教育成果の把握・可視化については、
  - ・全ての学修成果・教育成果を網羅的に把握することはできない
  - ・把握した学修成果・教育成果の全てが必ずしも可視化できるわけでもないという限界が存在する・・・（教学マネジメント指針 P22～23）

・・・学修者本位の教育の実現に向けた教学マネジメントの確立も、各大学において短期的に完全な形で実現されることは想定できず、関係者により安定的・継続的に取り組まれることにより実現されるものであることは改めて強調しておきたい。（教学マネジメント指針 P45）

教学マネジメントの確立に向けた取組の過程では、成果のみならず課題が明らかとなることも容易に想定される。課題が明らかになったとしても、各大学が真摯に教学マネジメントの確立に取り組み続けること自体を肯定的に捉え、長期的な視点でその取組を評価することが、各大学における教学マネジメントの確立を安定的・継続的に図る上で大きな後押しとなる。（教学マネジメント指針 P45）

ご清聴ありがとうございました

